

## 取材記者に問題の本質を気づかせることも大事

つい先日、以前に当 HP に掲載した「『車いす少女の中学入学を拒否…』の報道に接して（HP「雑学 BN」のマスコミ等コメント関係（V）2009.04.12.：参照）」の事例少女の追跡・検証の報道特集番組があった。

今回は障害児の地域の学校や養護学校に通学する全国の数事例も周辺取材もされており、その事例の一つがメル友のお子さんであったが、親としてのメル友のコメント部分はなかったので、次のようにメールした。

【 TV 番組、見ましたよ。あなたはあれこれしゃべったのではないかと思いましたが、番組編集上か、その部分はありませんでしたね。ちょっと不満足な番組でなかったかな？ (^o^ ) 】

早速、メル友から次のように返信（抜粋）があった。

【 担当ディレクターが初めて来たのは4ヶ月前のことでした。教育委員会や支援学校に対しての考え方が少し違っていました。

その時と今回の取材の折、我が家で夕食をとりながら（お酒も…笑い）、じっくり話しました。

いろいろな選択肢があり、それぞれが充実されていくことが必要、教育行政と良い関係で情報交換していることなど、阿部さん風に（笑い）話したかも……です。

その記者から先ほど電話をいただきました。語り合えた結果、納得のいく番組が出来上がったと話されていました。 】

「夕食をとりながらじっくり話しました。」とは、さすが我がメル友かな (^o^)

さて、マスコミ関係者は案外問題のあれこれ周辺の実情を知らずに取材しがち。

自分も現職時代、大手新聞社の記者が東京から取材に来た時、「一日の取材で解るはずがない！ 2、3日通って現場を見ながらであれば取材に応じる。」と条件を出したところ、記者は3日間通って来たので取材に応じたことがある。

マスコミ関係者はその問題に迫ろうとして取材するのだろうが、当事者（親を含め）や現場からすれば、取材意図が問題の本質からずれていると感じることも…。

うわべ的に取材に応じるだけでなく、記者に問題の本質を気づかせ、考えさせて、その問題の真の理解者に育てるのも、当事者や現場職員の役目かもね。